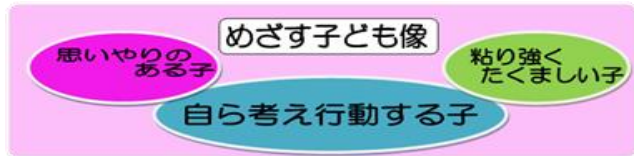




互いに認め合い、高め合う学校
みんなが安心できる居心地のいい学校
開かれた学校（学校・家庭・地域がつながりあうことを大切にしている学校）



4月9日（金）始業式、多くの子どもたちが8時の開門と同時に元気よく登校してきました。「おはようございます」という声の大きさに、一つ学年が上がって「がんばろう」という気持ちが伝わってきました。6日に一足早く入学式を済ませた1年生も、約束通り元気にあいさつをしてくれました。6年生は、入学式の前日から1年生を迎える準備をして、入学式に臨みました。校歌の声はとても美しく、お祝いのことばも、児童会役員を中心に声がそろって素敵でした。そして、入学式が終わってから体育館の中で保護者説明会が終わるまで30分以上の時間をとって静かにテラスで待って30分間で片づけを済ましてしまうメリハリ。始業式の後、今年は、6年生の教室が1年生の隣になって、「1年生かわいい。教室が近いからいつも1年生を見守れる。」と、笑顔で話してくれた6年生。何をとっても、もうすっかり最高学年です。

2年生は、入学式のあと、「歓迎の歌とことば」を披露しました。歌あり合奏ありダンス・なわとびあり、「1年間でこんなに成長するんだよ。」と体全体で表現してくれた2年生。セリフの声も大きくて、しっかり前を向いて、堂々としていました。来賓席の皆さんもその成長ぶりに感動してくださいました。PTA会長の阿部さんは、「特等席でこんな素敵なものを見ることができるとは、もっと早く役をしとけばよかった。」とおっしゃっていました。子どもたちの一生懸命な姿はとっても素敵で、大人を元気にする力があるんですね。子どもは本当に宝物です。



始業式の夕方、教頭が「ちょっと来て、ちょっと来て。」と数名の職員を連れてうれしそうに下足室に行く姿を見かけました。なんだろうと思ってついていくと、1年生のうわぐつが左の写真のようになってきれいに靴箱に入っていたのです。朝登校してきたときの運動靴もかかとのところがクラスカラーのビニールテープにそってまっすぐに並んでいて1年生すごいと思っていたら下校した後の上靴もこんなにきれいで、みんなに見せたくてしかたがなかったとのこと。下足室の前の壁に貼ってある「はきものをそろえる」(下記)の詩そのままです。当たり前のことだけなかなかできないことができて1年生。みんなで見習いたいですね。



保護者の皆様をお願いします

- ① 朝、校門が開くのは、8:00です。それより早く登校しても子どもたちは門の外で待つこととなります。大勢の子どもたちが歩道で長い時間待つと通行の妨げになり危険です。登校時間（8:00～8:20）を守るように子どもたちにお声掛けください。
- ② 1年生の子どもたちは、まだ一人で下校することができないので、地域の方にも応援していただいて集団下校をしています。分かれ道で順番にさようならをします。お時間の許す保護者の方は、下校時刻になったらお迎えに出ていただけると安心です。学校まで来ていただくのも大歓迎です。

はきものをそろえる

藤本幸邦

はきものをそろえること
 こころがそろうと はきものもそろう
 めぐとぎにそろえておくこと
 はくときに心がみだれない
 だれかがみだしておいだら
 だまってそろえておいであげよう
 そろすればきつと

世界中の人の心も そろうでじょう

この詩は、長野県篠ノ井町の円福寺の藤本幸邦和尚が作られたそうです。永平寺の開祖である道元禪師の「脚下照顧二足もとをよく見る」という教えを、分かり易い詩として表現したもので、『自分の履物を確認してみてください。乱れてはいませんか。もし乱れていたら直しておきましょう。まずは自分の心をそろえます。そして、だれかがみだしておいだら、だまってそろえてあげよう。』『そろえてあげたら』『そろえてあげたら』『そろえてあげたら』何も求めることなくだそうえとあげる。これが大事なことです。これは、今日からでもできることです。こんな些細なことですが、それを積み重ねていけば世界中の人々の心がそろう。そして世界を変えることもできるのではないのでしょうか。『自分ひとりがやっても変わらない。』『こころ言葉を聞きますが、自分がやらなければ何もかわりません。一人ひとりがそろわなくてはなりません。まずは自分が実践しましょう。』『こころを表現してこそ詩です。』